

子ども・保護者との

信頼関係を築く保育を考える



社会福祉法人 愛護会

東水沢保育園

保育士 伊藤 千春

## 1、研究主題

子ども・保護者との信頼関係を築く保育を考える

## 2、主題設定の理由

昨年度5歳児クラスを担当し、本年度から1歳児クラスの担任となった。初めてクラスに入ったときの子ども達の様子は、前年度の担任の持ち上がりがないことから、泣いてしまったり、人見知りが激しいクラスというのが第一印象だった。無理に話かけようとしても逆効果になると思い、歌を歌ったりしながら子ども達の様子をさりげなく見守った。「絵本みるよ～」「○○ちゃん(くん)」と呼びかけても反応が少ないという姿が見られ、自分自身もどうしたらよいのか…信頼関係をどう築いていったらよいか…という戸惑いを感じると共に、久しぶりの未満児担任になった事で、初心に戻り一から保育内容を考える必要があると感じた。また朝の受け入れ等で泣いてしまう子ども達の様子を見て、保護者の方々も不安な表情を見せているのを感じた。

子ども達が大好きな絵本や歌を通しながら、心を通わせるためには何から始めたらいいのかを考え、子ども達だけではなく保護者との信頼関係を築いていこうと考え、本主題を設定した。

## 3、研究のねらい

- ・たくさんスキンシップを図れる場を作り、子ども達の興味を示すものは何か探りながら、保育実践を行う。
- ・毎日の連絡帳への記入や、送迎時の少しの時間の会話の中で、園での活動やその日の子どもの様子、家庭での様子を話しながら保護者との信頼関係を築いていく。

## 4、研究の仮説

- ・子ども達が興味ある遊び（触れ合い遊びなど）を取り入れ、保育士と子ども達が関わっていくことで、少しずつ信頼関係（心のつながり）が築かれるのではないかと。
- ・園での活動、その子の様子、どのように関わったかなどを知らせ、また園や家庭での様子を共有し合うことで、少しずつ保護者との信頼関係を築くことが出来るのではないかと。

## 5、研究の内容・方法

- ①わらべ歌や触れ合い遊び、散歩などを通して、子どもとのスキンシップやコミュニケーションを図る。
- ②一人ひとりの姿や発達を理解し、どのようなものに興味を示しているのか探る。
- ③毎日の連絡帳や送迎時のやりとりを通して、気軽に話せる雰囲気を作り、保護者の方々とのコミュニケーションを図る場とする。

## 6、研究の実践

### ① 子どもとのスキンシップやコミュニケーションを図る

<おはよう！さようなら（バイバイ）>

子ども達と信頼関係がまだ出来ていない4月。一人ひとりの名前を呼んでも「〇〇するから、おいで～」と声を掛けても保育士の所に、数名しか集まらない日々が続いた。散歩時に前年度の担任に会うと、その担任のもとへ走り寄る子ども達の姿があった。その場面を見たときに改めて信頼関係（心のつながり）の大切さを感じた。また、朝の受け入れ、帰りの際に保護者の方々と話す中で、「今日〇〇したんですよ」「〇〇と言ったんですよ」と伝えても「そうですか…」「はい…」の一言の返事で終わってしまったりと、保護者の方々とも少し距離があるように感じた。クラスの子も自分が自分の方にも来てほしい…子ども達からも保護者の方からも信頼されたい…という思いが強くなり、子ども一人ひとりに無理なく寄り添いしっかり抱っこをし子ども達の気持ちを十分に受け止めながら、おはよう、さようなら（バイバイ）の挨拶を行うようにした。

<♪わらべうた ♪触れ合い遊び もう一回>

子ども達が朝登園して来てから、簡単なわらべ歌や保育士との1対1での触れ合い遊びを毎日行うようにした。子ども達の表情を見ながら「もう一回やってみようか！」「違うのもやってみる？」と問いかけながら楽しく行ううちに、一人…二人…と私のほうに近づいて来てくれた。数日がたつと「先生～」と言って、ひざの上にチョコンを座ってくれたり、自然に手をつないでくれたり、保育士が歌う歌に合わせて身体を動かさず姿が見られた。その中で高月齢の一人の女の子が「おうまさんやって！」とリクエストしてきてくれた。その子の姿を見て数人の

子ども達が「〇〇も！」と来てくれたり、言葉が出なくても保育士の近くに来て、表情で伝えてくれる子に気づいた。

考察…「泣かれたらどうしよう…」と思う気持ちがあり、当初は自分自身も身構えていたのではないかと感じた。保育士の心の不安が表情や言動に現れ、子ども達や保護者も不安に感じていたのではないか。それではいけないと考え、自分から積極的に関わろうと朝のわらべうた遊びや、触れ合い遊びをたくさん行うようアクションをおこした。何度も繰り返し子ども達一人ひとりの表情を見ながら行っていくうちに、保育士の所に来てくれるようになった。

今までは「なんとかしなくては…」という焦りがあり自分の流れで保育を進めていたのではないかと考えた。毎日のスキンシップやコミュニケーションを通して、一人ひとりの子ども達の気持ちを察してあげる事によって、必ずこたえてくれるという事が分かった。その中で自分の関わり方や接し方、また、わらべうたや触れ合い遊びのレパートリーの少なさに気が付いた。レパートリーを増やし、その時や場に応じて対応できる力をつけたいと感じた。

## ② 子ども達がどのような物に興味を示しているか探る

<絵本よんで！！>

子ども達が好きなものは絵本！！読み始めると、子ども達は絵本をじっと見つめ、保育士と一緒に手振りを真似したり、簡単な繰り返しの言葉があるときは言葉を一緒に発する子もいれば、口の動きを真似する子もいた。子ども達の絵本に対する興味は言葉の発達においてとても必要だと思う。子ども達の会話は、大きなカブの1シーンだったり、一生懸命歩く時は「よいしょ!よいしょ!」「ずんずんずん！」と大好きな絵本の言葉を言っていた。その子ども達の掛け声に合わせて、絵本を揺らしたり、一緒に動いてみたりという動作を加えるなどの工夫もした。絵本の中に食べ物のページがあると子ども達は一緒に食べる真似をしたり、保育士から「はい〇〇ちゃん、どうぞ」とおいしい食べ物を取ってもらい、口の中に入れられる仕草が大好きで、モグモグと口を動かした後には、「おいしいね」と友達同士で声を掛け合う姿がみられるようになった。

<簡単なごっこ遊び>

〇ままごと…子ども達が大好きな遊びの一つのままごと。4月当初は個々で食べ物を持っていたり、食べ物の取り合いが頻繁に起こっていた。発達の一つと理解

しているものの、保育士が「おしまい」と言い、すぐ他の遊びに切りかえる事が多かった。子ども達の言語の発達が少しずつしっかりしてくると、数人のグループで簡単なごっこ遊びへと展開している

のが分かった。さらに遊びが発展しないものかと考え、お人形や布団も出してあげると、女の子達が特に興味を示し、おんぶ紐で保育士やお母さんの真似をする姿も出てきた。

「ご飯ですよ～」 「ウンチしちゃったの？」

「一緒にねんねしようね」など普段の生活を真似した言葉掛けをしていた。



○おおきなカブごっこ… 12月の表現発表会の未満児劇でおおきなカブを行う。子ども達は大きなカブのワンシーン（うんとこしょ どっこいしょ）を遊びの中で楽しんでいた。子ども達同士のつながりが出来てきたので興味ある物でごっこ遊びに発展させる事は出来ないか…と考えた。絵本の読み聞かせでは大きな声で子ども達はセリフを言ったりしていた。子ども達と一緒に楽しめるように大きなビニール袋を活用しカブ作りを行う。



子ども達は大喜びで大きなカブを引っぱりあっていた。クラス内では大きなカブごっこは大盛り上がりで毎日のように「おおきなカブやりたい！」と毎日楽しんで行えた。

考察…絵本や遊びに対して、子ども達の一番好きな物はなにか、何に興味を持っているのか、保育士が今一番子ども達に伝えたいことは何か、今の季節に合っているか…等を考える事が改めて大切だと感じた。そのために、一人ひとりの反応や表情一つひとつを見逃さず、観察し保育の中に取り入れる必要があると感じた。また、子ども達が楽しんでいる絵本や遊びに対し、保育士も同じ目線になり楽しみ、共有・共感する事でコミュニケーションが深まると感じた。まず、一人ひと

りとの関係を密にし、把握することが大切と考えた。

### ③ 保護者の方々とのコミュニケーションを図る。

<参加日 親子でのリズム運動・触れ合い遊び>

参加日では普段の保育の中で行っているものを中心に進めていった。いつもは分室で、家庭的な雰囲気の中での保育だが参加日は広々とした本園のホールを利用した。いつもと違う場所という事もあってか子ども達の表情も固く、泣いてしまう子もいた。保護者の方々にも緊張が見られ、ホールの中に重い雰囲気が流れていた。触れ合い遊びを何度か繰り返すうちに、子ども達はお家の方にべったり甘えつつも表情がほぐれはじめ、笑顔も見られた。その姿を見て、保護者の方々の表情も柔らかくなっていった。親子楽しく遊ぶ姿に、自分自身の緊張もほぐれ笑顔で進める事が出来た。保護者の中には、自分の子どもだけではなく他の子どもにも話しかけたり「何月生まれですか？」と話している保護者の姿もあった。



<沐浴・水遊び・感触遊び ～お家ではどうですか？～>

夏にはお風呂場で沐浴や園庭で水遊びを行う。数人ではあるが水を嫌う子がいた。水を嫌がるのには理由があると考え無理はさせず、個々の状況に応じて行えるようにした。しかし、沐浴のお風呂・シャワーは平気だが、園庭で行う水遊び・シャワーを苦手とする子もいた。保育士間で話し合い、どのようにしたらよいか考え、色水にしたり、寒天、泡遊び、手作りおもちゃの導入、シャボン玉での楽しい雰囲気作りを行った。少しずつ慣れ始める子もいれば、最後まで泣いてしまう子もいた。

様々な事を取り入れたが、なかなか興味を持ってくれなかった子が数人いた。保育園にきたら水遊びをするという嫌な気持ちを作ってしまう、朝、玄関に用意したプールを見ると、泣いてしまう子もいた。「どうしたの？」という保護者の言葉にハッ！！とし、保護者によく伝えていなかった事に気づいた。保護者に話を聞くと「やっぱり保育園でもですか？」という親もいれば、「シャワーが苦手なんです…お風呂の際も大泣きで…」と話をする保護者もいた。



#### <園外保育などの伝え方 ～写真～>

秋の自然物（どんぐり、まつぼっくり、落ち葉）などにたくさん触れた。空き箱を利用し自分専用のお散歩バック製作を行う。



その日の様子を載せた集合写真や活動の様子を玄関に大きく張り出し、帰り際に各家庭に知らせた。子ども達もその写真に気づき、保護者に一生懸命話しかける姿があった。子ども達の言葉を大切にしながらその日の様子を話した。次の日の連絡帳では保護者の方々から「園外保育の楽しい様子が伝わってきました」「みんな保育園生活楽しんでますね」などのメッセージがあった。

#### <保護者を巻き込んで楽しむぞ～>

おうちの方々にも保育園で楽しんでいる遊びを一緒に体験してもらいたいという思いから、後期の保育参加日では子ども達が大好きな「おおきなカブ」の劇ごっこを行う。その活動につながる新聞紙遊びではいつも行っている以上に部屋の中を新聞紙だらけにし、破いたり、ちぎったりして遊んだ。子ども達や保護者の様子を見ると、前期とは違う姿になっている事に気が付いた。今回の参加日では、他の



子ども達の名前を呼び一緒に遊んだり、他の保護者の膝に座って遊ぶ子どもの姿が見られた。

保護者の方々は楽しそうにしている子ども達を見て笑顔で見守ったりしていたが、一緒に体験して欲しいという思いがあり「おうちの方々も一緒に行ってみてください」と声を掛けた。どの保護者も積極的に新聞紙をちぎったりして



遊んでいた。また、「家では正直こんな遊びは出来ません。保育園だからこんなにダイナミックに遊べるから楽しいんだよね」と話してくれた。

その後は、ちぎった新聞紙を大きな袋に入れ、カブを作った。劇ごっこでは親子で一緒に「うんとこしょ どっこいしょ」と掛け声を合わせて言ったり、抜ける場面では全員が転んでみたりした。おうちの方々も子ども達と一緒に楽しむ姿が見られた。



考察…水遊びの場面から、子ども達が活動の中で泣いてしまったり、試行錯誤してもうまくいかなかったときは、早いうちから保護者に家庭での様子を聞けばよかったと思った。家庭での様子を参考にしながら、おうちの方と一緒に考えたり、試したりすれば、早くから子ども達を楽しく活動させられたのではないかと感じた。「～させたい」という気持ちが先行してしまった所があった。その日の様子を連絡帳や玄関に写真を大きく貼り出す事で、子ども達が自分から写真を指差しで知らせたり、保護者に話しかける姿が多くなっていた。このような方法は保護者にとっても視覚でとらえることが出来、共有しやすいと感じた。そこから共通話題として会話も弾み、より関わりを持つ事が出来たと考える。

積極的に子ども達や保護者に声をかけ、笑顔で接する事で楽しい雰囲気での活動できた。コミュニケーションを図るためには笑顔を絶やさず積極的に話かけることが大切と感じた。

## ※保育士同士の共通理解の難しさ

1歳児のクラス担任は自分を含め3人体制で行った。自分が主担任としてどのようにクラスを進めていくか、保育内容について何度も話し合いを行ったが話がまとまらず、共通理解ができなかったりする事があった。職員によって保護者への口頭での連絡の仕方の違いや職員間の確認不足のために、保護者へ迷惑をかけてしまった事もあった。

保育をしていく中でこれではいけないと考え、クラスで連携を図るため様々な実践を行った。

- 1・主任、副園長、園長を交えてクラス別会議を行う。
- 2・午睡中に時間を設け、子ども達の様子や状況など気になる面などについて話し合いを行う。
- 3・連絡帳の書き方、保護者への伝え方についての話し合いを行う。

考察…自分は分かっている相手には間違えて伝わっていたり、逆に伝わってなかったり…という事があった。相手が分かるだろうという考えではなく、本当に理解しているか、自分が相手と逆の立場だったら理解できるか等を考え、関わっていかねばならないと考えた。

また職員や保護者との信頼関係を築くためには、言葉の一つひとつが大切に相手分かるように言葉を選んだり、視覚になるものを用意して話をしたりする事もよい方法だと分かった。

## 7、研究の成果

- ・子ども達と無理なく関わり、そっと抱きしめるなどのスキンシップを行う事で、子ども達も次第に保育士に心を開き始め、泣かないで登園したり、お家の方々に「バイバイ」し笑顔で保育室に入っていく姿を見る事が出来た。保育士とのスキンシップやコミュニケーションをしっかりと図ることによって、子ども達の触れ合うときの表情が変わり、にこにこの笑顔を見せてくれたりするようになって、嬉しく感じた。その一人ひとりの姿から、子どもとの信頼関係（心のつながり）が出来てきたと感じる。
- ・たくさん歌やふれあい遊び、絵本を取り入れ、日々の保育につなげていく事で、少しずつ関係が図れるようになってきた。最初、子ども達は保育士の様子などを見ていたが、今では、「〇〇先生～」と子ども達から寄ってきてくれたり、「お散歩したいなあ」と積極的に話をしてくれるようになった。

- ・保育士の計画した事、体験させたい事だけではなく、子ども達が何をしたいか、今、何に興味を持っているか考える事で毎日の保育を楽しく行う事が出来た。一度体験した事によって、「もっとやりたい！」という子どもの声にもすぐ対応してあげることができ、ごっこ遊びから劇遊びへと展開できた。
- ・送迎時や連絡帳を通して、一人ひとりの様子や現在の子どもの発達の様子だけではなく、保護者との連携を密にしていく事で、家庭環境の変化はないか、保護者が悩んでいる事や、不安に思っている事は何かなどが分かってきた。また、保護者と一緒に考えていく中で解決策を見つけたり、一緒に悩みを共有する事によって、少しずつ保護者との信頼関係を深める事が出来た。

## 8、反省と課題

- ・自分自身が焦ってしまった事や、家庭での様子を細かく色々な面から聞かなかった事を反省した。
- ・一緒にクラスを受け持っている保育士や先輩保育士から様々な話を聞きながら保育を進めるべきだった。
- ・保護者の方々と信頼関係(心のつながり)を築くのは難しいと改めて感じた。どのようなすれば、より信頼関係が持てるのか、子どもの家庭内での様子を上手に聞き取る事が今後の課題である。
- ・保護者や職員に対して言葉を伝える事の難しさを感じた。また、「書く」という事は書き方により、誤解をされたりしてしまう事もあった。今後は、一つひとつの言葉に責任を持ち、相手が理解できるように話し、コミュニケーションを取っていく事が必要である。
- ・子ども一人ひとりの気持ちや欲求を十分にくみとり、「大丈夫だよ」「そばにいるからね」「大好きだよ」といった自分の気持ちを言葉や、抱きしめたり頭をなでてあげるなどの肌と肌とのスキンシップを図る事で、心(気持ち)のつながりが出来ると感じた。日々の保育につなげ、一人ひとりと信頼関係を築きあげられるような保育士になりたいと考える。